

## 第一回 GX2040リーダーズパネル

### 議事概要

日時：令和6年7月2日  
11:00～12:00  
於：官邸4階大会議室

1. 開会
2. 意見交換
3. 閉会

#### 配付資料

- 資料1 Melanie Nakagawa 氏／Bobby Hollis 氏資料
- 資料2 Michael Wade 氏資料
- 資料3 川添雄彦氏資料
- 資料4 小柴満信氏資料
- 資料5 松尾豊氏資料

#### 出席者：

- |                  |  |
|------------------|--|
| 岸田 文雄            | 内閣総理大臣                                     |
| 齋藤 健             | GX 実行推進担当大臣兼経済産業大臣                         |
| 林 芳正             | 内閣官房長官                                     |
| 伊藤 信太郎           | 環境大臣                                       |
| Melanie Nakagawa | マイクロソフトコーポレーション 最高戦略責任者                    |
| Bobby Hollis     | マイクロソフトコーポレーション グローバルエネルギーチーム              |
| Michael Wade     | IMD ビジネススクール 教授                            |
| 川添 雄彦            | 日本電信電話株式会社 代表取締役副社長 副社長執行役員                |
| 小柴 満信            | C d o t s 合同会社 共同創業者                       |
| 松尾 豊             | 東京大学大学院工学系研究科 技術経営戦略学専攻<br>/人工物工学研究センター 教授 |

#### <出席者からの発言概要>

- AIの活用とデータセンターは、予測による気候変動への対応やイノベーションの創出など、現代社会の課題解決において非常に重要。
- データセンターの省エネ化や、サプライチェーンにおける脱炭素化の推進が重要。
- AIの活用でエネルギー需要は拡大する一方、技術革新によって緩和されると考えられる。データセンターの立地と脱炭素電源へのアクセスをどのように進めるかが今後の課題。
  
- デジタルやAIの活用はエネルギー消費を増やすが、見える化（排出箇所の特定と対応）、行動化（物質から仮想への置換による資源削減）、規模化（センサー活用による農業収穫の増加）などによりGXに貢献しうる。
- 企業等のGXとDXのシナジー創出には、共同推進に向けた統治の指針設定やインセンティブの提供など、政府の役割が重要。日本政府は既にDXとGXを1つの組織で所管しており、期待できる。
  
- DXにより消費電力量が加速度的に増加する中、光電融合技術を用いて電力消費を格段に抑えるIOWNが有益である。
- インターネットの時代だった2020年代には「数の論理」が中心だった。これからの時代は、論理の転換を図り、「価値の論理」で勝負していくべきである。
  
- 半導体技術がもたらすビット生産性は売上成長を飛躍的に高める。日本企業もこのビット生産性を生かしていかなければならない。
- 量子コンピューターを活用したシミュレーションの高度化などにより、仮説、試作、評価、分析というものづくりのサイクルは飛躍的に加速し、高度化しうる。
  
- GXの実現には、AIを用いたエネルギー需給の最適化やサプライチェーン全体のデータ統合、排出量の算定などが有効であり、DXはGXのイネイブラーといえる。
- AIのさらなる利用のため、効率的な半導体の開発などに取り組んでいく必要がある。

#### <自由討議>

メガデータセンターと電源投資のリードタイムの長さ、原子力発電の役割などに関する有識者への質問があり、回答の概要は以下。

- AIの利用によって、データセンターをグリッド上の最適な場所に配置することができるため、既存のインフラを活用してリードタイムを短くすることも可能。
- 供給の方法には正解がなく、エネルギーミックスの中で補完する必要がある。原子力は供給が安定していて、様々な技術開発もされており、役割があると思う。